

天主閣

だより



マキキ聖城キリスト教会

「長老たちとの対話・神の御業の回顧」

日本聖書協会 総主事 具志堅 聖

「昔の日々を思い出し、代々の歳月を顧みよ。あなたの父に問えば、答えてくれる。長老たちも、あなたに話してくれる。」
(聖書協会共同訳・申命記三二章七節)

私は先日カナダに一時帰国した際、ひさしぶりに車を運転しました。日本に再度遭わされて五年が経過しましたが、まったく運転する機会がありませんでした。恐る恐る運転を始め、十五分後には高速道路を走っていました。一時間ぐらいしてやっと体が車にしっかりとフィットするような感覚をもちました。

思い切って前進！特に高速道路を時速百キロ以上で運転するのは気持ち良いものです。その際かならず忘れてはならないこと、それは時々バックミラーで後方を確認して運転することです。バックミラーを見る行為、それはちょうど私たちが過去を想い起こすことにあると思います。

必要に応じて想起する時を持つ。過去にこだわり過ぎるとマイナスとなりますが、適切に回顧することは何かを企画する際とても重要なことです。私が現在総主事として仕えている日本聖書協会(BS)は、二〇一五年に創立百五十周年を迎えます。その祝いの時に向け

て記念商品開発、記念誌編集、記念イベントなどを計画しています。その一環として、聖書協会で最も長く信徒理事としてご奉仕された川平朝清先生にインタビューする時を持ちました。御年九十六歳、今でもラジオプログラムに出演する名実ともに長老です。昭和女子大学名誉理事・名誉教授であり、私もBSの名誉理事でもあります。現在も頭脳明晰で、声はクリアで淀みがありません。長寿の秘訣は何かと問うと、「うん、そうだね。毎日一時間ほど歩くことと、それと讃美歌を歌うことだよ」と優しく教えてくださる信仰の先輩です。

川平先生は戦前に現在の台湾でお生まれになり、父親は軍の関係者でした。戦後さまざまな経緯を経て、悲惨な焼け野原の状態にあった沖縄で日本語のラジオ放送を始めます。その後ZETAアナウンサーの養成所に入り、さらにアメリカに留学。ミシガン州で学んでいた時、後の奥様と出会い結婚。そして、沖縄に戻り沖縄放送協会の設立に関わり、同時にZETAの経営にも関わるようになります。その頃からBSの理事となりキリスト教界内でも活躍されました。

川平朝清先生とのインタビューで教えられたことがあります。それは「物事の正誤」について、何が正しいか誤っているかを見分けるのはとても難しいということでした。安易に結論づけてはいけません。沖縄の特殊な戦争体験をしている人々の中で、アメリカとのつながりを持ちながら生きてきた。反米でも反日でもない。公に語るアナウンサーとして、絶えず祈りつつ、絶えず謙虚で、絶えず悲観せず明るい思いと信念を持って語る。それを繰り返して自分に言い聞かせるようにして歩んできたと言っておられました。多くの困難や苦悩を通られた方なのですが、その微笑みは誰

よりも柔和で温厚な表情でした。私はインタビューを通して深く慰められました。

今でもBSを応援してくださっていることを光栄に思いました。戦争体験を分かち合える世代の方々はどうだいぶ少なくなっています。機会がある限り、彼らの貴重な声を聞くことをお勧めします。また、戦争体験に限りません。教会の歩みもそうです。戦前・戦後を駆け抜けた先輩の方々の経験から私たちは多くのことを学び活かすことができます。現在の課題は異なっても、共通する本質的な事柄はかならずあります。今まさに奥村牧師の時代のように世界では戦争が起きています。経済危機も起きています。現在のような裕福なホルルルではなく、農業が主力産業の時代でした。共通点・相違点を適切に捉え、変わることにない真実なる歩みに注目する。「教会は祈り続けたこと」、「弱い人を顧み助けたこと」、「神の栄光のために「精一杯献げたこと」など。あらためて想い起こすことが今なすべきことではないかと思えます。

私の仕えているBSも同じことを行っています。この聖句はモーセが生涯の終わりに語り歌った言葉の一部です。民の過ちと神の導きと御業を省みるようにという内容です。ヨシユアはこれを受け、すべての民に語り聞かせたのでした。神は今何を教会に語りかけておられるのでしょうか。前進するために、過去の歩みを顧みる時をもつことができれば幸いです。

(注)川平朝清先生の二人のご子息はJ-Waveのラジオパーソナリティやタレントとして活躍しています。この度、長男のジョン・カビラさんと川平先生、親子の対談プログラム「Generation to Generation『STORIES OF OKINAWA』(J-WAVE放送)」がハワイAMラジオ

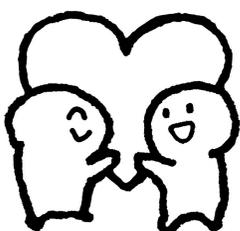
KOOLで放送される予定です。ぜひお聞きください。マハロ！

今月の言葉

惨めな自分を笑うユーモアは先人の知恵。どんなに辛いときでも明るく生きる高等技術
美輪明宏

シルバー川柳

- 実は俺点滴、湿布の二刀流
- なあ息子 孫の言葉は日本語か？
- 犬猫にマイクロチップ次は俺
- どうしましよ三個ありますマヨネーズ
- お年玉 持続可能か聞くな孫



今月の証

「ラウリマの恵み」

青沼 牧恵

アローハ！マキキ教会の皆様、そしてマキキ教会のご縁でつながる皆様こんにちは。天主閣便りに寄稿させていただく機会を感じました。今回は私もかわわっているオンラインの「ラウリマミーティング」の恵みを分かち合いたいと思います。

最初に簡単に自己紹介します。現在沖縄在住、一九九二年〜九六年の間マキキ教会で当時の青年会 Joy Birds メンバー、礼拝奉仕、のぞみの会、子供会などでボランティアをしていました。当時毎週土曜日に週報やこの天主閣便りの印刷をしたのも楽しい思い出です。そして一緒に教会奉仕をしてきた Joy Birds メンバーの夫と、マキキ教会の皆様に見守られダウンタウンのフォスター植物園で結婚式を挙げました。

一九九六年にハワイを離れ、夫の故郷である長野県軽井沢町で十年近く過ごしていました。

当時インターネットは簡単なホームページの閲覧と E-mail のやりとりがでるくらいで、今のようないアルタイムで顔を見ながら会話をすることはできませんでした。

ハワイとマキキ教会が大好きな私がマキキから離れ、見ず知らずの土地で生活するのはとても苦痛だったことを思い出します。

長野での生活にも慣れたころ、一念発起し沖繩へ引越することになりました。そして、コロナ禍になって思うように活動でき

ないさなか、二〇二〇年十一月オンラインでマキキ教会のリユニオンをきっかけに始まったのがマキキ・ラウリマミーティング。私はラウリマの際に、司会や連絡係などを担当しています。

さて、コロナが蔓延しはじめた二〇二〇年三月ころ、キリスト教立の病院で医局秘書として働く夫が感染防止対策として教会へ集うことをストップすることになったため、毎週オンライン配信で礼拝をすることになりました。オンライン礼拝は日本だけでなく世界のあらゆる教会の礼拝を疑似体験でき、メッセージを聞くことができる大きな恵みの場でありました。語られる聖書のみ言葉に励まされ、信仰が保たれていることは感謝なことでした。ですが、本来なら礼拝後にもたれる教会の友との交わりの必要性を実感するようになりました。

ラウリマは現在マキキ教会に集っているメンバーはもちろん、過去マキキに集い現在日本に帰国したりアメリカ本土や世界中に居住している人たちを繋ぐ、コロナ禍からできた恵みの場です。マキキ教会の現役メンバーの中には、私がハワイに住んでいた頃お世話になった方や、ハワイを離れて日本のリユニオンで出会った方、ラウリマで初めてつながる方と懐かしい再会や新しい出会いがあります。

そして何より、毎回ゲストスピーカーによる聖書のメッセージにより、気づき、学び、なぐさめ、励まし、力を得る素晴らしい恵みを受けることができます。これまでにメッセージをとりついでくださった方は、マキキ教会日語部牧師の藤浪義孝先生をはじめ、前任者の具志堅聖先生（お祈り）、黒田朔先生、四〇年以上前の土屋牧

師。マキキ教会の宣教師による恵の結実である福音交友会牧師 清水先生、栗原先生。マキキ教会にゆかりの深いアーサー・ホーランド先生（お祈り）、清水まお牧師 & 撰宣教師夫妻。元シンガポール日本人教会牧師の松本先生がいらっしやいます。最近 zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて、メッセージの後スモールグループに分かれ、ミニチャーチのように分かち合いの時を持つなどしています。スモールグループ分けはランダムですので、新しい方との出会いも楽しみの一つです。スピーカーの先生が各グループをひよっこり訪問してくれるサプライズもあります。また昨年マキキ教会の音楽宣教師である Duo 高瀬によるオンラインのコンサートも開催しました。コンサートはマキキ教会の Youtube チャンネルにアップされていますので、ぜひご覧ください。お二人の素晴らしい讃美と証を聞くことができます。

このように不定期開催で、時差もあるため仕事や家庭の都合などで参加が難しい方がいらっしゃるの承知していますが、ぜひ時間を作って一度参加してみてください。マキキ教会の現役メンバー、旧メンバー、元メンバー、全くマキキとかかわりがなかったけど参加された方など、オンラインだからこそ可能な様々な方が集いみ言葉に耳を傾け、分かち合う恵みと感謝のあふれる時間を過ごすことができます。

次回はおなたもぜひご参加ください！
お待ちしております。 マハロ

今後の予定

☆「心に光をクリスマス」
十二月二日(金)カリヒユニオン教会

聖歌隊参加者を募集中です。
練習日は四回あります。

十一月六日、十三日、二十日、二十七日、各日曜日

午後一時から二時までマキキ教会にて共に主を賛美し、皆でクリスマスをお祝いしましょう。

☆ 感謝祭ポットラック
十一月二十四日(木)
詳細は週報をご確認ください。

編集後記

日本への入国緩和をうけて、約三年ぶりに帰国してきました。秋空が広がり少し冬の香りもする街で、久しぶりに会う家族や友人、兄弟姉妹と、コロナ禍が与えてくれた恵みを数えて、神様がこれから私たちに期待してくださる色々を再確認する時にもなりました。やっぱり神様はいつも、私たちの目が見たことのないこと、耳が聞いたことのないこと、心に思い浮かびもしなかったことを、神を愛する者たちのために備えてくださっていると確信しワクワクしながらハワイに戻ってきました。

マキキ聖城キリスト教会 宣教部
編集 玉寄 朋子
レイアウト 大塩 真由